

史料紹介

## 薩摩御城下絵図

三木 靖<sup>1)</sup>

1) 891-0197 鹿児島市坂之上 8-34-1 鹿児島国際大学

### 1. 城名

鹿児島城下絵図は城、仮屋、士屋敷（麓等）、町屋（野町等）と道路を主対象とする6図からなる。この6図は紙面割の都合で、文章に続けて掲載する。本稿は6項目をとりあげる。鹿児島県立図書館所蔵の薩藩御城下絵図は、島津藩の6ヶ所をそれぞれ1図として描がいたものを、図書館が購入し登録した。6図は、それぞれ(1)鹿児島城、(2)大口城、(3)出水城、(4)加治木城、(5)伊集院城、(6)高城を対象としていて、図中に城名が書かれ、鹿児島城以外は、城名を別に書かれ、その脇に周辺地名との距離が書かれている。なお鹿児島城は城名を書かれずに、周辺地名との距離が書かれている。また高城には、「薩州高城之図 共六」と別筆で書かれた貼紙がある。6図とも掛け軸になっていて、それぞれは小紙片が貼り込まれて1図になっていて、小紙片の重なった部分が厚くなっていて、(1)鹿児島城は小紙片が15枚、(2)大口城は12枚、(3)出水城は8枚、(4)加治木城は12枚、(5)伊集院城は8枚、(6)高城は8枚ある。このうち(4)加治木城は小紙片を確認しにくい。なお(6)高城は小紙片1枚を失っている。これは前記した同城の別筆の貼紙と関連があると思われる。

### 2. サイズ

続いて図面のサイズを、県立図書館のデータで見ておく。

- |          |             |
|----------|-------------|
| (1) 鹿児島城 | 107cmと122cm |
| (2) 大口城  | 111cmと102cm |
| (3) 出水城  | 103cmと78cm  |
| (4) 加治木城 | 115cmと88cm  |
| (5) 伊集院城 | 102cmと77cm  |
| (6) 高城   | 100cmと75cm  |

この6図では、記載がそれぞれの図の端に依っていて、当時の絵図の通例に従って縦、横との表現には馴染まないため、最大122cmと、最小75cmとしておき、6図は大略同一大とみなしたい。

### 3. 蔵書印

6図とも、作者や来歴は不詳。だが、(3)出水城と(4)加治木城とには、明確な「城東有吉」という蔵書印が見られる。6図とも同じ押印がある。これと同一の蔵書印は、早稲田大学図書館蔵の大坂城図等にも共通していて、城東氏は古城郭図等に関心の高い人物であり、島津藩（薩摩藩）の史料と特段に関係が深い人物ではなかったと思われる。この6図は、古城郭図愛好家からみの島津藩領の城図である。これが、この絵図についてのひとつの特徴である。

### 4. 中世城館番号

この6図の対象となったもののなかで、山城については鹿児島県が1987年に中世城館調査をした際の報告書によって城郭番号が付されている。それは次の通りであった。

- |          |      |          |         |
|----------|------|----------|---------|
| (1) 鹿児島城 | 鹿児島城 | 1—13、上山城 | 1—12    |
| (2) 大口城  | 大口城  | 9—12     |         |
| (3) 出水城  | 出水城  | 8—9      |         |
| (4) 加治木城 | 加治木城 | 52—3     |         |
| (5) 伊集院城 | 一宇治城 | 30—1     | 別名を伊集院城 |
| (6) 高城   | 妹背城  | 6—9      | 別名を高城   |

6城は総べて、鹿児島県の中世城館調査の対象となっていたのである。そのなかで伊集院城は、調査では一宇治城をメインの名称とし、別称で伊集院城としており、高城は、調査では妹背城をメインの名称とし、別称で高城としていた。本稿は、薩藩御城下絵図通りに、それぞれ伊集院城、高城を名称とする。

### 5. 1城に2城名

鹿児島城は、上記の通り、鹿児島県の中世城館調査では鹿児島城と上山城の2名称で扱われていた。この様に2名称となったのは、歴史的な経緯とかかわりがある。南北朝期に山城として上山城の名称で登場し、戦国期に山城として上山城が再登場し、更に戦国最終期に再度登場する。

この再々度の登場の際、平城を拡充し、山城と平城からなる上山城となった。この直後に藩政期となり、それに応じる様に、上山城は鹿児島城と名称が変わる。とはいえ藩政期当初、山城部については、上山城の名称も使われていたが、平城部が鹿児島城の中心となっていくと、山城部は平城部の縁辺部として使われるようになる。藩政中期に至って、実際上は平城の一部となっても、幕藩制上の公的書類では、山城部は鹿児島城の中心と位置付けられていた。藩政末期になると、山城部は完全に平城部の一部分となり、近代になってからは上山城も、鹿児島城の山城部も、鹿児島城からは消滅してしまった。史料によって、上山城と鹿児島城の山城部は、かつて鹿児島城だったと明確に指摘されたが、鹿児島の歴史に関心を寄せる者でもこの指摘を軽視して、事態はほとんど変わっていないのが現状である。この背景として島津藩制の特殊性がある。同藩は、城域内とすると、幕府の強い統制を受けるが、長い伝統下、藩政の中核である本拠城については、幕府の掣肘を受けることを嫌って、鹿児島城の城域を極端に狭めてきた歴史と、長い伝統により領国内に、本拠城を事改めて強調する必要性も無かった歴史との存在が挙げられる。

## 6. 周辺城との距離と関連

次に、記載された文字についてみておきたい。いずれも図には、東西南北と書き、当該城と、周辺地域2～5ヶ所との距離を「里」を単位として書いている。その地域と、距離は以下の通りである。

- (1) 鹿児島城 日向縣船津 38 里, 川内川船津 11 里半, 東庄内郡都城 15 里, 大隅佐多岬 25 里, 坊津 17 里
- (2) 大口城 鹿児島 15 里, 芦北久木野堺 4 里半
- (3) 出水城 芦北水俣堺 3 里, 鹿児島 23 里,
- (4) 加治木城 日向縣船津 33 里, 鹿児島と陸地 5 里, 同所と海上 3 里
- (5) 伊集院城 芦北水俣境 20 里半, 鹿児島 5 里半,
- (6) 高城 芦北水俣堺 15 里, 鹿児島 12 里

各城の位置関係の記載は、鹿児島城のみが独自の内容で、日向と大隅と薩摩と3国内の地域名を載せ、加治木城が薩摩と日向の地名、他の4城は薩摩と肥後の地名を載せている。位置関係の基準的な地域名では、肥後の芦北、なかでも水俣が圧倒的に多い。

更に道筋が各紙面の端に至った場合には、主には次の通り書かれている。

- (1) 鹿児島城 東郷道, 大口加治木往還筋道,
- (2) 大口城 鹿児島往還筋, 久木野往還筋,
- (3) 出水城 芦北水俣堺, 鹿児島往還筋,
- (4) 加治木城 日向往還筋, 鹿児島往還筋, 大口往還筋
- (5) 伊集院城 加治木山越道筋, 出水口往還筋
- (6) 高城 出水口鹿児島往還, 野田往還山越近道往還, 往還筋, 道, 堺との名称が使われ, 山越えもあり, 地名としては、薩摩鹿児島が一番多く、大隅加治木がそれに次ぎ、更に、肥後が続いている。薩摩は東郷, 大口, 出水, 野田とある。何と云っても、鹿児島が断然目立っているのである。

## 7. 仮屋の主人公

鹿児島城については、城の麓にある区画に、「居宅」した者の氏名の記載がある。これは、藩主名や、次期藩主予定者名を意味している。又加治木城については、城名の脇に氏名の記載があり、その氏名の下に居城の記載があり、城の麓にある区画に同一人物名と、その下に居住の記載がある。以上の2城を除く4城では、城名の脇に「番代」として氏名の記載があり、城の麓にある区画に同一氏名と、その氏名の下に仮屋と記載されている。この番代は城の管理者を意味している。この人物に関しては、諸郷地頭系図には地頭として在任した期間が記されていて、各城図の描かれた時期を推定する手懸りとなる。なお、仮屋（類似するものを含む）は、図の中央に据えられ、人名が記されていて、重複されているので、各図に続けて、図のうち、仮屋部分を拡大して掲載する。

- (1) 鹿児島城 「大隅守居宅」, 「薩摩守居宅」とある。島津氏正統系図で、前者は第2代藩主光久（1616年生～1694年没, 1638年家督継承, 1661年12月25日大隅守就任, 1673年12月28日同辞任, 1687年9月7日隠居）が1661年～1673年の間在任し、後者は綱久（光久の子で, 1633年生, 1661年12月26日薩摩守就任, 1673年2月19日没）で1661年～1673年の間在任したことが分かる。
- (2) 大口城 「島津帯刀」, 「島津帯刀 仮屋」とある。諸郷地頭系図で、大口地頭の島津帯刀久元は1666年8月11日着任, 1674年8月退任ことが分かる。
- (3) 出水城 「町田勘解由」, 「町田勘解由 仮屋」とある。諸郷地頭系図で、出水地頭の町田勘解由忠代は1669年3月8日着任, 後任1682年3月晦日着任し



たことが分かる。

- (4) 加治木城 「島津兵庫」, 「島津兵庫居住」とある。  
島津氏正統系図で、義弘；1607年冬加治木着任、  
1619年7月21日加治木没と分かる。
- (5) 伊集院城 「別府式部左衛門」, 「別府式部左衛門 仮屋」とある。  
諸郷地頭系図には、伊集院地頭として別府式部左衛門の在任期間については、記載がない。
- (6) 高城 「河上上野」, 「川上上野 仮屋」とある。  
諸郷地頭系図で、高城地頭の川上上野介久運、1671年3月3日着任、別説では1670年11月着任、1671年春退任と分かる。

以上で各城の描かれた時期と、地頭が仮屋で管理者として勤務したことが予測できる。鹿児島城については、島津大隅守光久が在任した1661年～1673年の間、薩摩守網久が在任した1661年～1673年の間を描いたものと推定される。大口城については、地頭島津帯刀久元が在任した1661年～1673年の間を描いたものと推定される。出水城については、地頭町田勘解由忠代が在任した1669年～1687年の間を描いたものと推定される。加治木城については島津兵庫義弘が在任した1607年～1619年の間を描いたものと推定される。伊集院城については地頭別府式部左衛門が在任した期間を描いたものと推定される。高城については地頭川上上野介久運が在任した、1670年～1671年の間を描いたものと推定される。また藩主は、「居宅」で、任務を遂行したことが推定される。

## 8. 色分け

次に、絵図の対象についてみておきたい。6図には6種又は7種の色彩が使われている。この色分けは山、海川、国堺、侍屋舗、町屋、田畑、道を明瞭にするためである。この区分は各絵図で若干異なっているので、その実状をみておきたい。そこで、山、海川、国堺、侍屋舗、町屋、田畑、道の区分名称が、そのまま使われているのは○印を付し、名称が異なっているのは、その文字を記載し、使われていないものは「無し」としてみた(後掲の表1)。

色分けは実際には6図とも明確であった。6図はいずれも中央部に森か山を描き、それに接して「仮屋」などを描いた。その仮屋の周囲には、侍屋敷地域と町屋地域とを分けて描き、その周囲の田畑もとりあげている。

この6図は山城、仮屋、城下をはじめ城の周囲を絵体として描こうとしているが、特に仮屋が最重要視されている

とみることができる。これが6図の大きな特徴のひとつで、その関連で在の村、士屋敷のある村、また関連する寺社等と山、河川、通路も、その内部にも、その周囲にも、描かれ、周辺の村も描かれている。なお道については、文字について述べた際に触れた。

## 注記

本図については、鹿児島県立図書館に、鹿児島城の研究のための資料利用許可申請書を提出し、2019年1月24日に資料利用許可書をいただいた。ご配慮いただいた鹿児島県立図書館の担当者の方々に感謝しあげる。

本図は多量のデータを包含しており、各方面からの総合的調査、研究が必要である。特にこのうちの「鹿児島城」図は、他の5図と大きく異なり、城や内部についての描写があり、同城の解明に極めて重要な絵図史料である。先鞭を切られた松尾千歳氏には、特段のご教示をいただいた。また五味克夫氏「鹿児島城の沿革—関係史料の紹介—」(鹿児島県埋蔵文化財調査報告書26, 『鹿児島(鶴丸)城本丸跡』鹿児島県教育委員会1983年3月発行)等、『鹿児島(鶴丸)城跡保存活用計画』(鶴丸城御楼門建設協議会・鹿児島県監修・2016年3月発行)等には、お世話になった。その他高城についての大久保寛氏をはじめ各面でお世話いただいた関係者の方々ともどもに感謝する。

参考にした資料は多いので、特に引用させていただいた資料名を挙げて感謝したい。

「諸郷地頭系図」(鹿児島県歴史資料センター黎明館編集

『鹿児島県史料 旧記雑録拾遺諸氏系譜1』(1989年1月、鹿児島県発行))

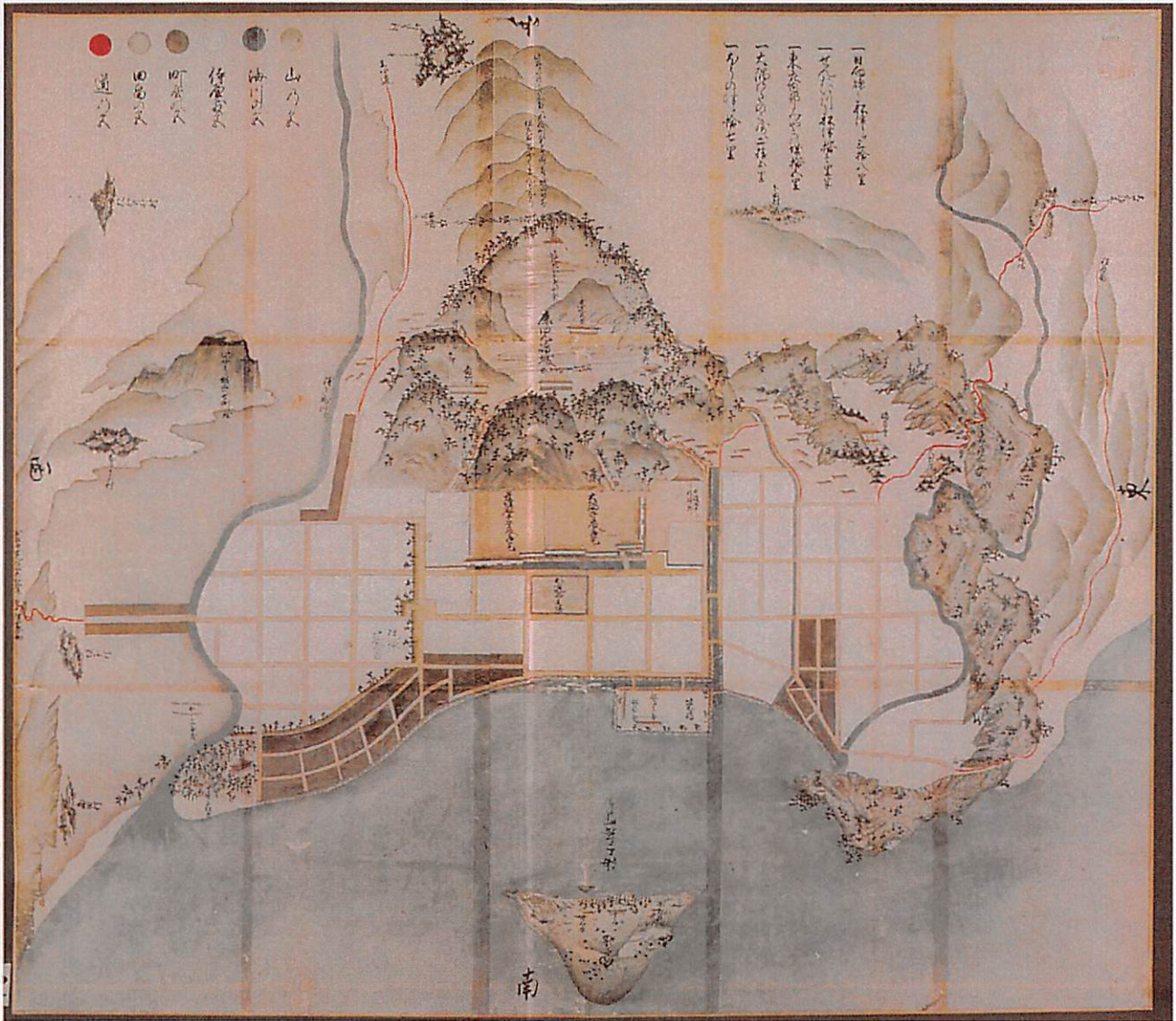
「島津氏正統系図」(島津家資料 島津氏正統系図(全))(尚古集成館編、島津家資料刊行会、1985年10月発行)

「鹿児島県の中世城館跡—中世城館跡調査報告書—」(鹿児島県埋蔵文化財調査報告書43、鹿児島県教育委員会1987年3月発行)

松尾千歳「薩摩御城下絵図」(松尾千歳『鹿児島歴史探訪』高城書房2005年10月発行)

なお、講演「江戸城の手本になった鹿児島城!？」(2019年2月24日第6回城サミット、鹿児島市中央公民館会場)も、薩摩御城下絵図の鹿児島城について触れた。



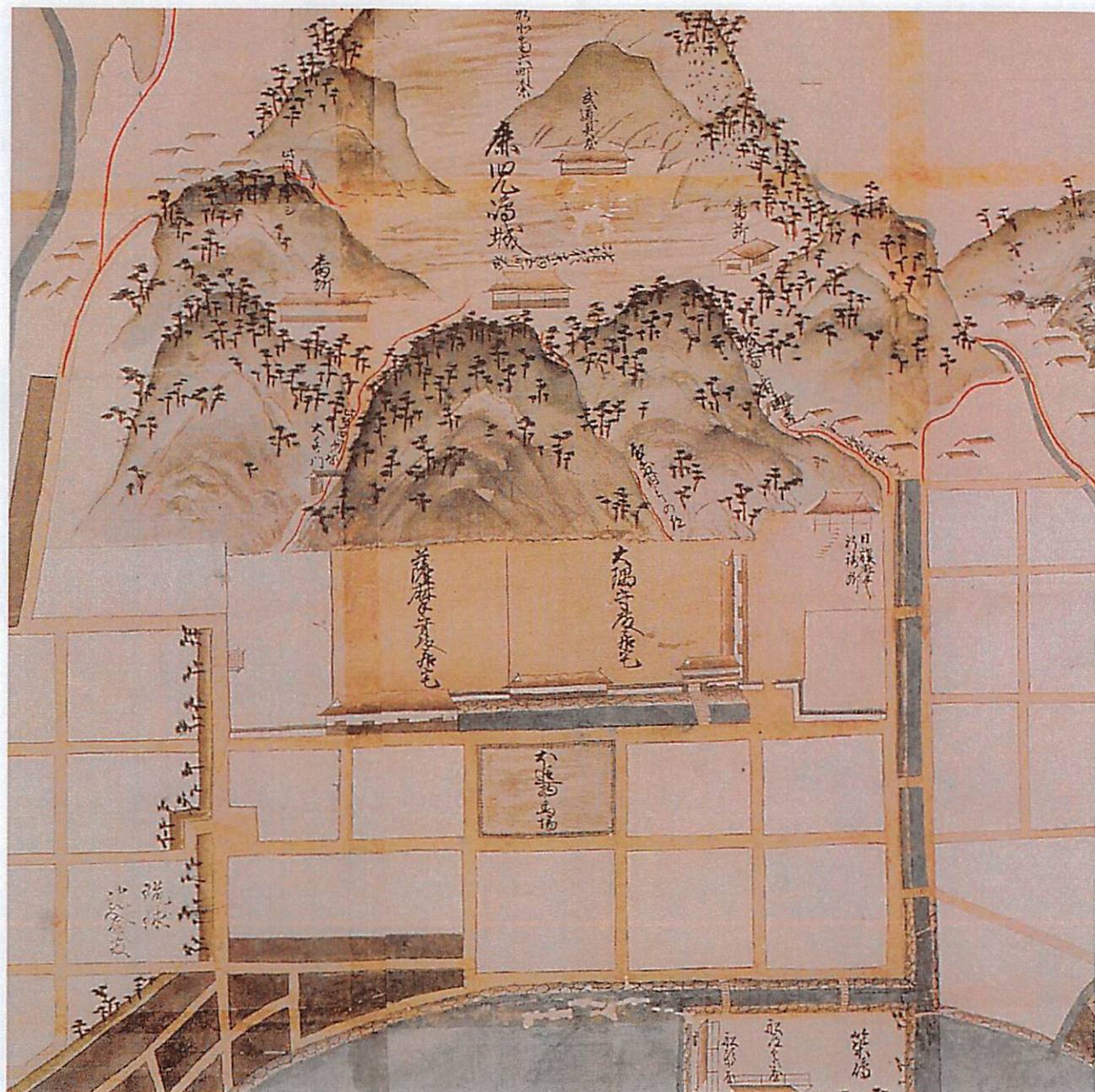


(1) 鹿児島城

表1 図中の色分け区分表記の一覧

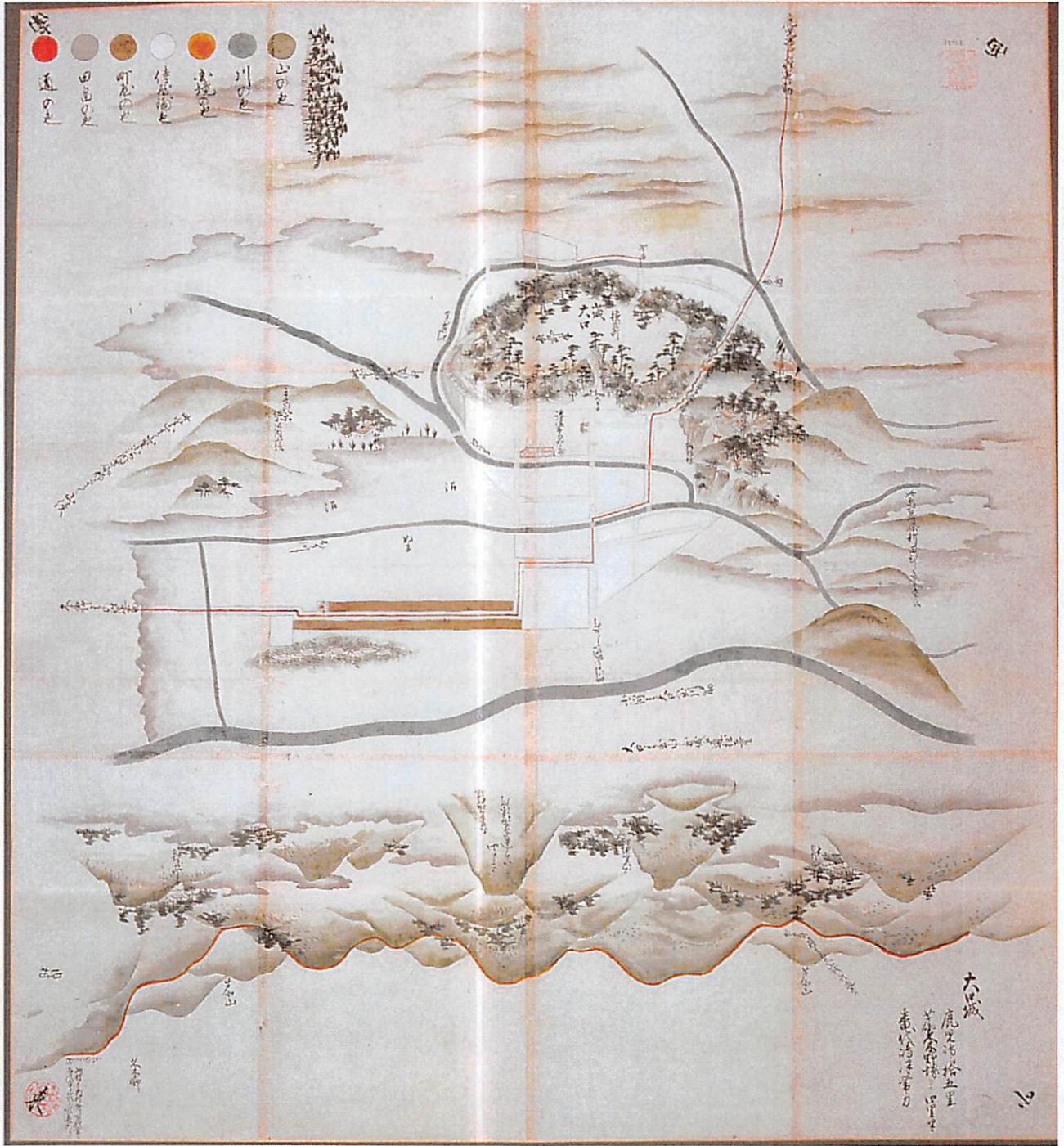
	区 分						
	山	海川	国堺	侍屋敷	町屋	田畑	道
(1) 鹿児島城	○	○	○	無し	侍屋敷	○	○
(2) 大口城	○	川	国境	○	○	○	○
(3) 出水城	○	○	○	○	○	○	○
(4) 加治木城	○	○	無し	○	○	○	○
(5) 伊集院城	○	川	無し	○	○	○	○
(6) 高城	○	川	無し	○	○	○	○





(1) 鹿兒島城 麓部分拡大図





(2) 大口城





(2) 大口城 飯屋部分拡大図



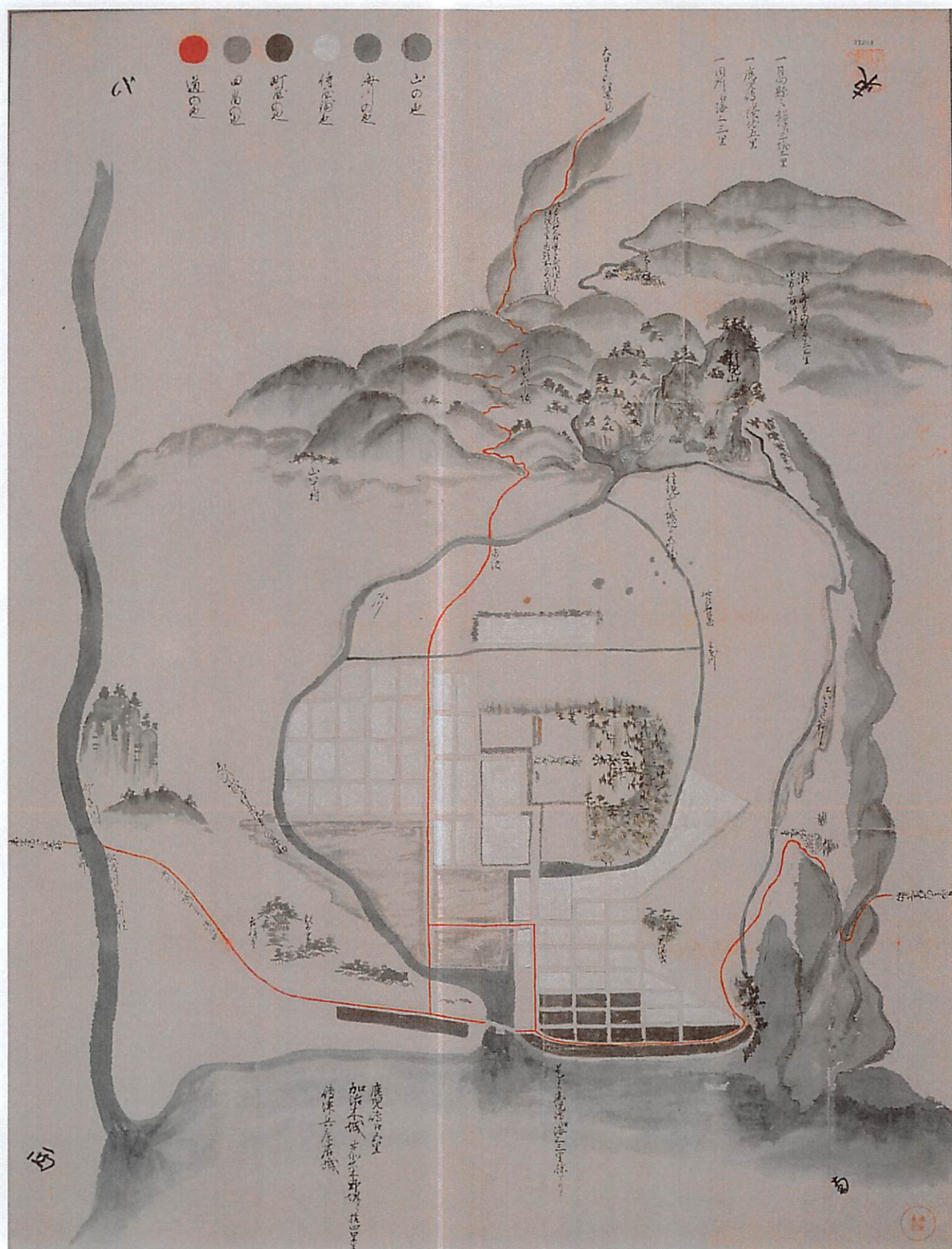






(3) 出水城 飯屋部分拡大図





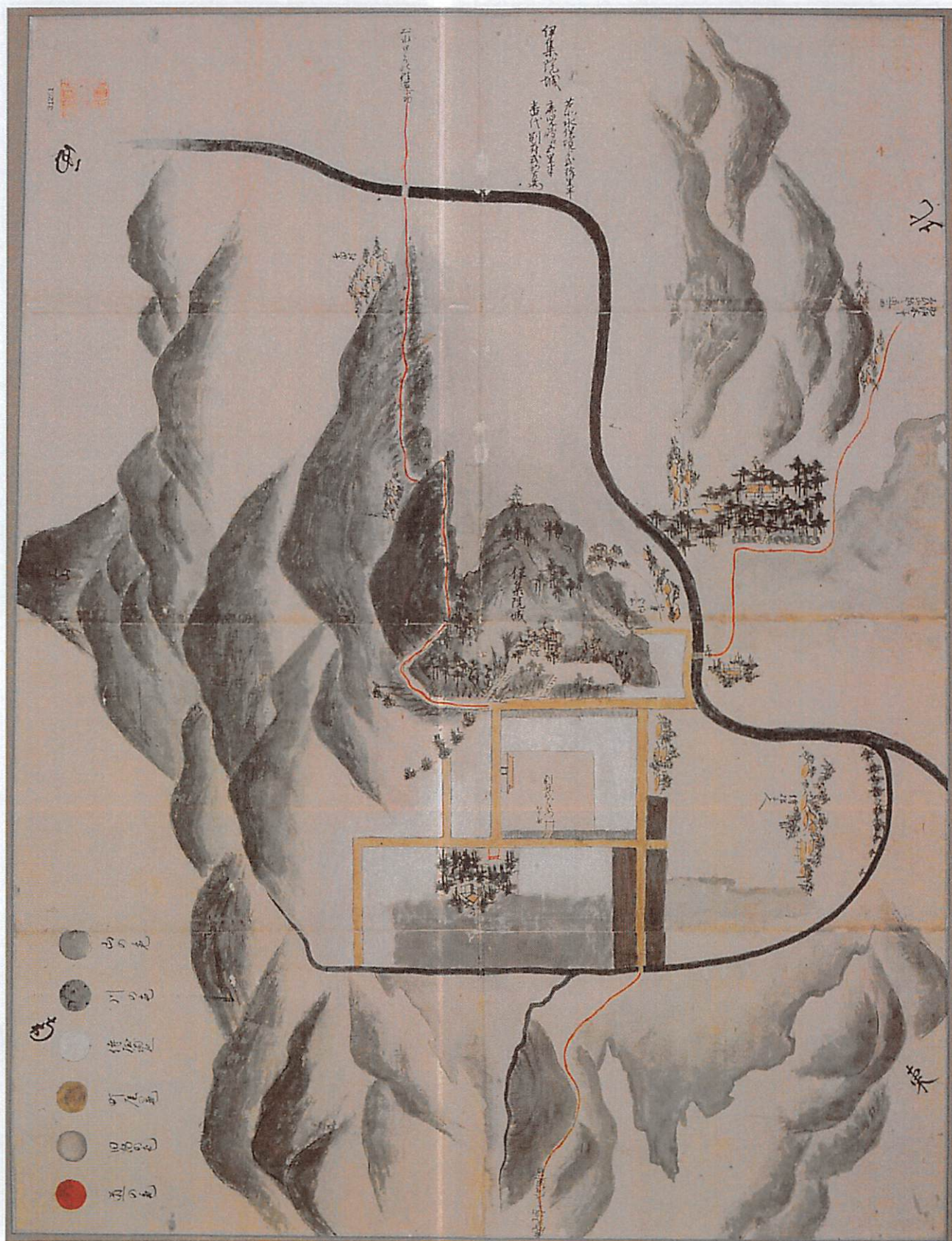
(4) 加治木城





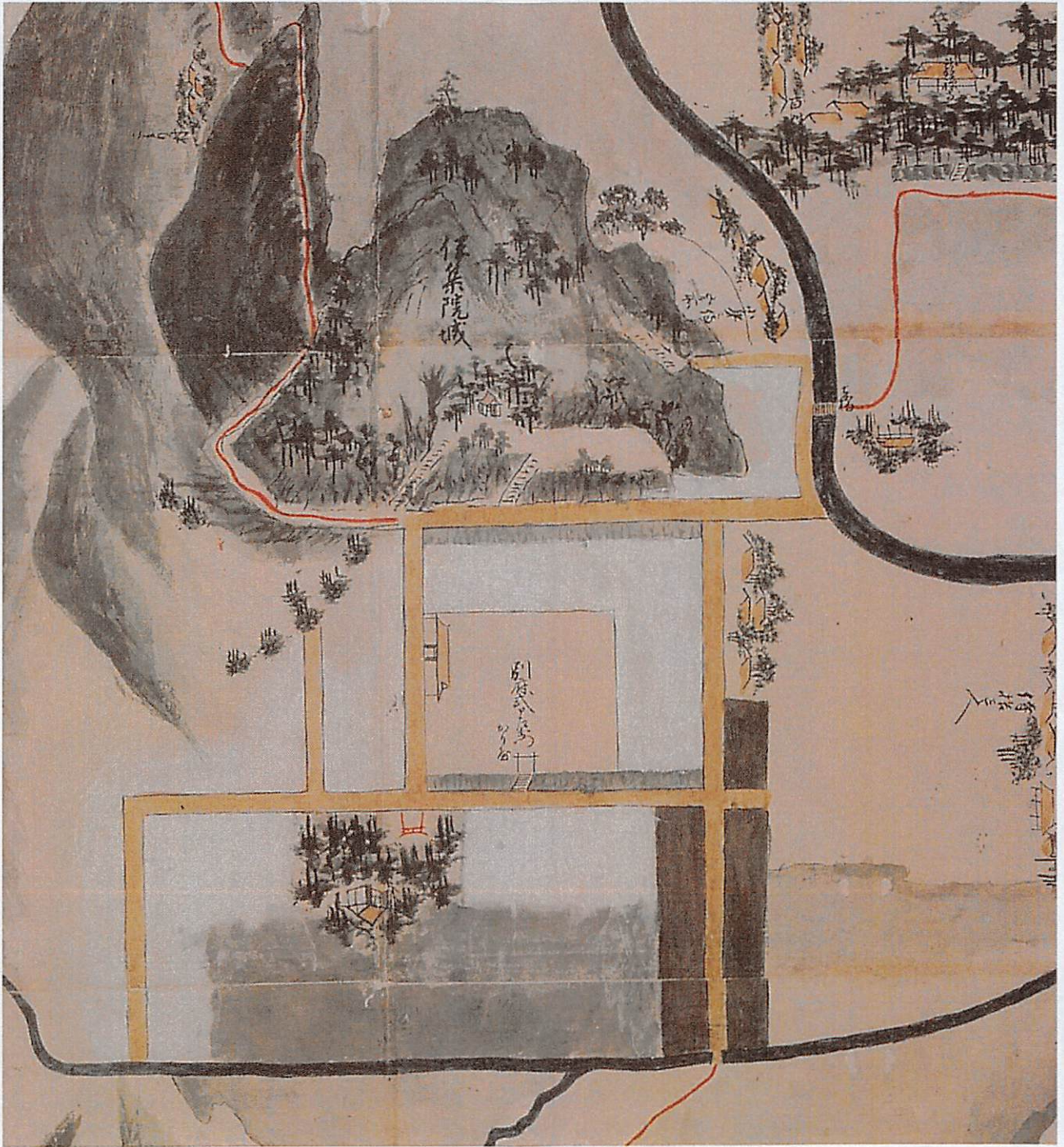
(4) 加治木城 飯屋部分拡大図





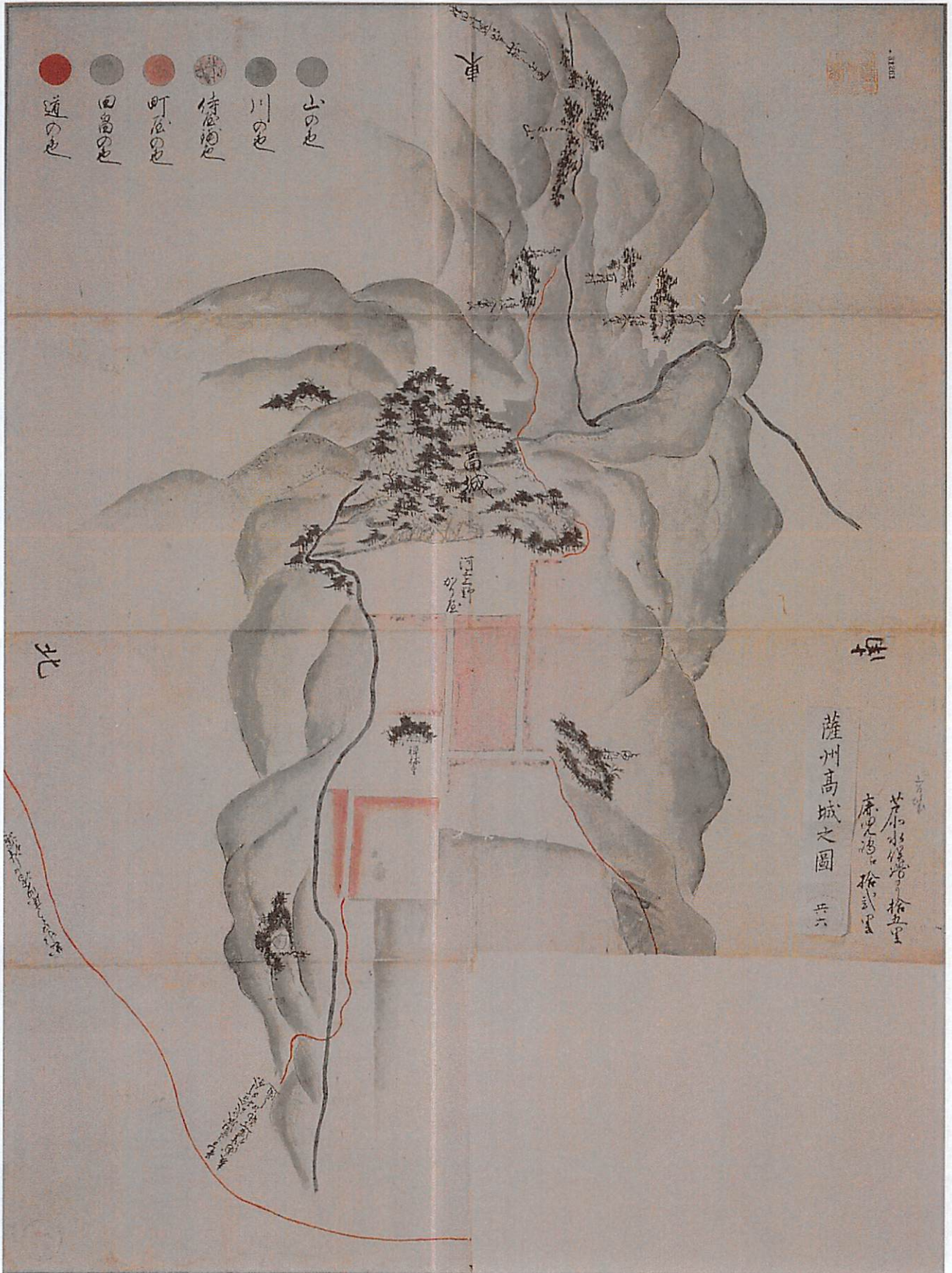
(5) 伊集院城





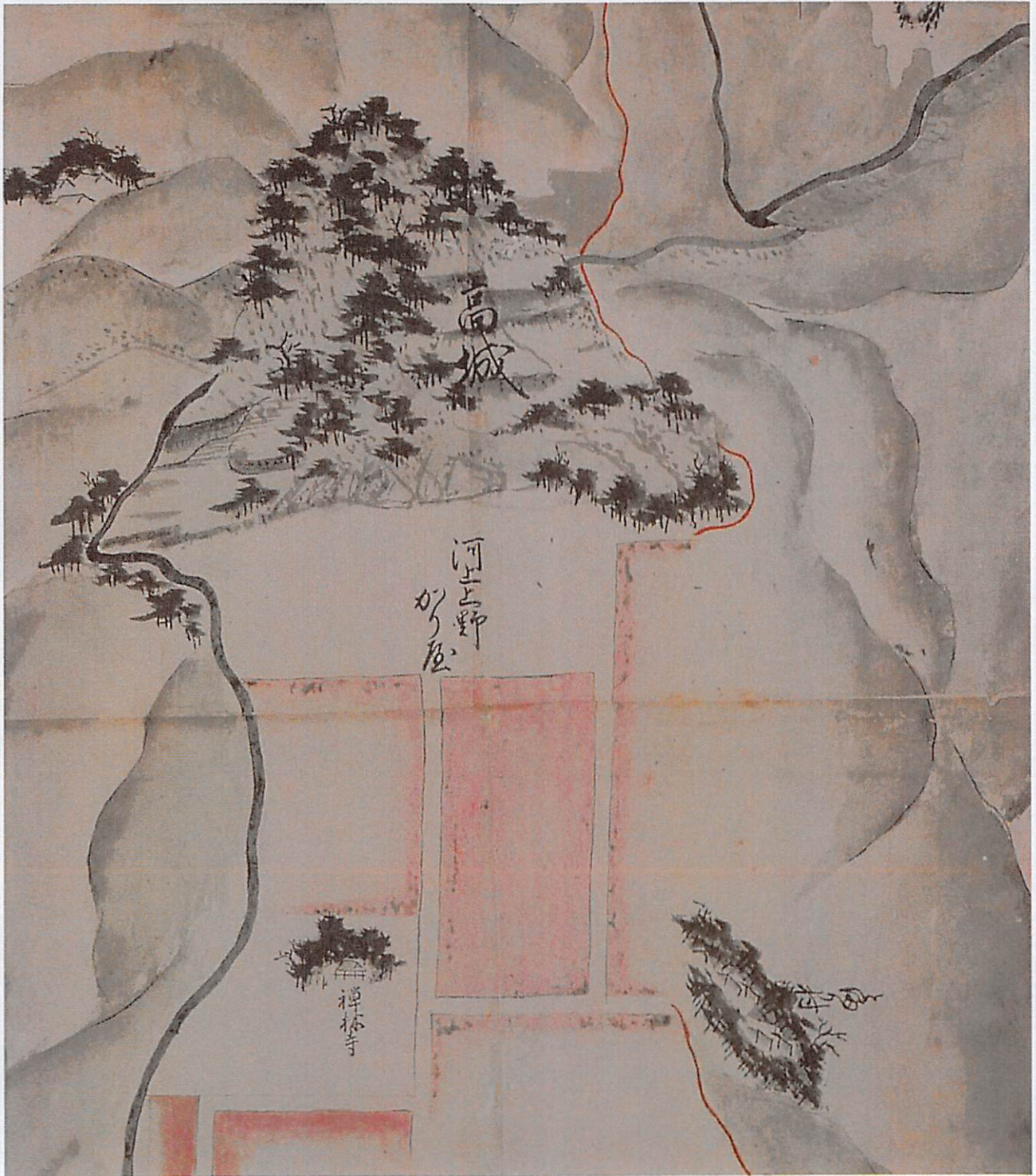
(5) 伊集院城 飯屋部分拡大図





(6) 高城





(6) 高城 飯屋部分拡大図